

練馬区の将来像を考える区民懇談会

## 教育分野分科会 中間報告書

### 1. 現状における課題

#### (1) 「家庭」に係る課題

- ・子どもの教育においては、家庭が重要な意味をもっています。家族が共に時間を過ごすことができるよう、家族一人ひとりの努力が求められています。
- ・親は、子どもの手本です。大人になりきれない親が多い現状から、親自身が自覚し、家庭での基本的な教育ができるよう、親への教育が求められています。
- ・子どもの人間性や生活習慣などの躰は家庭の教育力によって育まれます。社会規範を身に付けた人間性ある子どもを育むために家庭力の向上が求められています。

#### ■ 「家庭」に係る課題

- \* 家族で一緒に食事をするなど団らんのない家庭の姿を見直すことが必要となっています。
  - ・現在の家庭は、家族そろって会話を楽しみながら、朝食や夕食を一緒にとることが少なく、個食となっている子どもが多くいます。仕事などによって、家族が共に過ごす時間がとれないなかでも、働き方を考え直すなどによって、親子が一緒にいられる時間を増やす努力をすることが必要です。
  - ・特に、父親が家庭に係わっていくための支援が必要と考えられます。
- \* 大人（親）は、子どもの手本であることの認識と責任意識を持つことが必要です。
  - ・親自身が自己中心主義（我が子中心的姿勢）、学力優先思考、市場原理主義・金銭至上主義であることを改めることが必要です。
  - ・大人になりきれない親も多く、子どもにとって親（大人）が手本であることや、家庭教育の重要性を意識していない親（大人）が多いことから、大人は子どもの手本であることを認識し、大人自身が人格を高める努力をすることが必要です。
  - ・子どもにおこっている様々な問題は、大人の責任であり、子どもの教育のためには、親（大人）の教育をすることが必要です。
- \* 子どもを育む家庭の教育力の低下が課題となっています。
  - ・家庭における人間性づくりや基本的な日常生活習慣の躰が放棄されていることが問題と考えられます。家庭が、躰と人間性づくりなど精神（心）の豊かさを養えるような教育の力をもてるようにすることが課題です。

## (2) 「学校」に係る課題

- ・公立学校の教育については、基礎学力の習得や、私立との教育格差などが問題となっています。公立学校は、公立としての役割の自信をもって、子どもへの教育を実践していくことが求められています。
- ・子どもは多様化しています。そうした状況に応じて、子ども主体の教育の実践が求められています。
- ・学校教育においては、教師が重要な役割を担っています。教師が教育に専念できるような体制を作ること、教師の評価制度の充実などによる教師の資質向上、さらには、人事権の移譲による有能な教員の確保が求められています。
- ・子どもの特性、社会の変化などに柔軟に対応できる学校経営力を発揮するために、民間ノウハウの導入や民間人材の登用、社会人との交流などが求められています。
- ・家庭や地域の教育力が低下している現在、社会性や豊かな心を育むために、奉仕活動への積極的な参加が求められています。

**■「学校」に係る課題**

- \* **基礎的な学力を育む公立学校の教育を立て直すことが課題です。**
  - ・学力については、授業時間の減少によって、基礎学力が身に付かないという問題、塾に行くことを当然と考える風潮などがあります。公立学校が教育への自信をもつことが必要です。
  - ・公立と私立の差、公立学校間の教育格差をなくすことが必要と考えられます。
  - ・IT社会の進展によって、直接会話することが少なくなっていることから、言語力を身に付ける教育が必要です。
- \* **子どもの特性に応じた学校教育を実践することが課題です。**
  - ・子どもの学力レベルや個性が異なる中で、子どもの特性を捉え、それに合わせた教育を行うことが必要と考えられます。
  - ・子ども主体の教育を実践していくことが必要です。
- \* **教員の資質の向上や有能な人材の確保が課題です。**
  - ・教員は、子どもの授業を持つ以外に雑用が多く、多忙です。教員の負担を軽減し、教育に集中できるようにすることが必要です。
  - ・教員の人事権は東京都にあります。有能な人材が練馬区外へ流出しないような仕組みが必要です。
  - ・教員の資質・能力向上のための評価制度があります。この制度の機能を十分に発揮させることが必要です。
- \* **社会情勢の変化の中で、学校の経営力を向上させることが必要です。**
  - ・積極的な学校経営を実現できる民間ノウハウをもつ人材の登用（民間校長の登用、民間教員の採用）を進めるとともに、社会人との交流を図ることも必要です。
- \* **子どもの豊かな心を育むために学校教育に奉仕活動を取り入れることが必要です。**
  - ・子どもたちには、正義や道徳心、宗教心の欠如がみられ、命の大切さが理解されていないと思われます。また、公共心や規範意識が希薄なことなど、子どもの心が育っていないことが問題です。
  - ・奉仕活動により、子ども達は自立し、社会性や協調性を身に付けることができ、また、他者に対する思いやりや社会規範を体得することができます。ひいては、非行防止にもつながっていくものと考えられます。
  - ・小中学校では「奉仕活動」を必須の活動とするなど、奉仕活動・ボランティア活動を実践する機会を多く設けていくことが必要です。

### (3) 「地域社会」に係る課題

- ・学校教育の向上にあたっては、地域の人を活用した特色ある教育を行う必要があります。また、子どもの心を育む教育の実践にあたっては、家庭と学校、地域の協力や連携を図っていくことが必要です。
- ・地域は子どもにとって社会を学ぶ場でもあります。地域の人々の絆を深め、地域の教育力の向上を図ることが必要です。

#### ■ 「地域社会」に係る課題

- \* **教育環境向上のために、家庭・学校、地域が連携を図ることが必要です。**
  - ・学校教育における社会人の活用、奉仕活動の導入などを推進するためには、学校と家庭、地域が協力できる体制をつくる必要があります。
- \* **幼児や小中高校生、大学生、高齢者、主婦など様々な立場の人が地域の中で交流し、つながり（絆）を深めるような工夫が必要です。**
  - ・子どもにとって地域社会は、家族以外の人との交流等を通じて社会規範やルールを学ぶ場となります。しかし、地域の人と人のつながりが希薄であることから、絆を深めるような工夫が必要です。

### (4) 「生涯学習施設」に係る課題

- ・生涯スポーツ・生涯学習に対する区民の多様なニーズに対応して、その基盤となる施設の充実が求められています。
- ・特に、特別区全体からみて区民一人あたりの蔵書数が少ない図書館の充実や、東京国体の開催等将来を見据えたスポーツ施設の充実が必要です。

#### ■ 「生涯学習施設」に係る課題

- \* **区民の多様なスポーツニーズに対応し、競技にも利用可能な、観覧席のある施設整備が必要です。**
  - ・整備にあたっては、民間を活用すること、敷地の確保にあたっては、光が丘公園等所有地を利用するなどの方策が考えられます。
  - ・平成25年の東京国体や平成28年の東京オリンピックの実現に向けて、都・国との協力も視野に入れて施設の充実を検討することが必要です。
- \* **区民の学びを支える施設の充実が必要です。**
  - ・練馬区の区民一人あたりの図書館蔵書数は、23区中22位です。特別区平均の蔵書数まで充実させる必要があります。

## 2. 練馬区がめざすべき将来像

### (1) 「自立心・社会性・協調性・やさしさを身に付け、個性や多様性を受け入れ、健康でのびのびとした人づくり」ができる教育をめざします

#### ①めざすべき将来像1

- ・子どもたちが、楽しく、明るく、のびのびと育ち、夢のある、心の豊かな子どもに育っていくため「自立心・社会性・協調性・やさしさを身に付け、個性や多様性を受け入れ、健康でのびのびとした人づくり」ができる教育をめざします。

#### ②将来像の具体的内容

- ・教育の最終目標は子どもたちの“育ちよう”にあります。
- ・社会規範や奉仕の心を身に付けていること、障がいを持つ人などを区別することなく、互いを尊重し、他者への思いやりを持ち、自分自身も大切にして、健康で、のびのびとした人づくりをめざします。

#### ＜めざすべき将来像1

「**自立心**・社会性・協調性・やさしさを身に付け、個性や多様性を受け入れ、健康でのびのびとした人づくり」ができる教育＞

- \* **自立心**・社会性・協調性・やさしさを身に付けた人づくり
  - ・自ら進んでボランティアなど地域活動に参加できる奉仕精神の育まれた子どもが育つ
  - ・あいさつをする、ごみを拾うなど社会規範を身に付けた青少年が育つ
- \* **個性や多様性を受け入れ、他者を思いやる心をもつ**人づくり
  - ・生きるものの命の大切さを知り、他者を尊重しつつ、思いやりの心を持つ子どもが育つ
  - ・だれも区別されることがなく、ともに社会のメンバーとして生きられる社会づくり
- \* **自分自身を大切に**し、健康・元気で**のびのび**とした人づくり
  - ・健康、元気で、のびのびと子どもが育つまち
  - ・自分自身を大切に思う心・前向きに生きる意欲がある「人」が育つまち

(2) 「家庭・学校・地域各々の教育力の向上と連携・協力体制の確立」をめざします

①めざすべき将来像2

- ・家庭、学校、地域各々が子どものための教育の力を有し、学力、心・からだを健全に育む教育を実践するため 「家庭・学校・地域各々の教育力の向上と連携・協力体制の確立」 をめざします。

②将来像の具体的内容

- ・子ども達の学びの場は、学校の他に、家庭・地域社会があります。その各々の主体が子どもの教育のための力を蓄え、発揮していきます。
- ・家庭においては、生活の基本となる躾や人間教育などが行われるべきです。そのために父親・母親が子どもを健やかに育てられるよう、家庭の教育力向上をめざします。
- ・区内に立地している高等教育機関と学校との連携、練馬区の特徴である豊富な農地・農業人材と学校教育との連携など、区内にねむっている人・モノの力、様々な活動や経験など区民の英知を活かし、区民全てが子どもの教育に参加できるまちをめざします。
- ・学校においては、子どもに学力をつけるための授業の実施や豊かな心を育む教育など、地域の裁量と責任のもとで教育改革に取り組んでいきます。
- ・子どもの心と身体が伸びやかに育つよう、幼児期からの計画的な体力づくりを推進し、また異年齢が交流できる環境をつくりまします。

＜めざすべき将来像2

「家庭・学校・地域各々の教育力の向上と連携・協力体制の確立」＞

- \* **子どもを健やかに育てる基礎となる教育力を備えた家庭づくり**
  - ・父親・母親が家庭教育できる環境をつくる
  - ・子どもを育てることについて親が学ぶ
  - ・親同士のコミュニケーションを図る
- \* **地域の力を活かした特色ある学校づくり**
  - ・練馬区ならではの教育環境づくり（農地の活用）
  - ・高等教育機関との連携による情操教育・文化教育
  - ・体験型学習の充実
- \* **子どもの学力・心の教育を地域の裁量と責任で推進する教育**
  - ・着実な教育改革
  - ・教師の資質向上
  - ・幼稚園・小学校・中学校の連携による幼児期からの計画的教育体制の確立
- \* **子どもたちの心身の健全育成のための家庭・学校・地域の連携づくり**
  - ・異年齢の交流・ふれあい環境づくり
  - ・子どもの体力づくりのための民間スポーツ施設との連携・協働体制づくり

(3) 「生涯学習・スポーツの充実」をめざします

①めざすべき将来像3

- ・年齢を超えたふれあいや区民の楽しみの場と機会を提供する 「生涯学習・スポーツの充実」をめざします。

②将来像の具体的内容

- ・誰もが生涯にわたって学習できる生涯学習社会の実現のために、既存のスポーツ施設や社会教育施設の充実を図るとともに、学校と文化施設の連携などを進め、感動を与える生涯スポーツの実施や、生涯学習を通じて、区民が夢や希望をもてるような社会づくりをめざします。

＜めざすべき将来像3 「生涯学習・スポーツの充実」＞

- \* 夢と希望と感動を与えるスポーツ施設の充実
  - ・観覧席のあるスポーツ施設
- \* ふれあい交流の機会を生む生涯学習環境づくり
  - ・子どもから高齢者までが交流し、教え合い・学び合う場づくり
  - ・社会教育施設の充実－図書館の充実
- \* 教育施設・文化施設などの多様な連携による学びの拠点づくり
  - ・地域の学習拠点としての学校づくり
  - ・教育・文化施設の連携
- \* 自らの力を地域で活かせる生涯学習環境づくり
  - ・区民提案による講座
  - ・地域人材育成
- \* 郷土を理解し、誇りをもって世界の人々と交流する区民の育成
  - ・伝統文化や伝統芸能の学習・理解・継承
  - ・地元の歴史への誇り